

活動成果報告書

平成27年度（第19回）「チヨダ地域保健推進賞」

活動テーマ

「自分が、家族が認知症になっても、住み慣れた地域で安心して暮らせる町」を目指して

応募グループ名称及び氏名（グループの場合は代表者名）

土庄町健康増進課地域包括支援センター

代表者：山本真 由美

勤務先：土庄町役場

所 属：健康増進課 地域包括支援センター

所在地：〒761-4121

香川県小豆郡土庄町淵崎甲1400-25

TEL：0879-62-1234

FAX：0879-62-1235



◇活動方針

1. 認知症の人への理解が深まり、地域全体で支える仕組みをつくり「自分が、家族が認知症になっても、住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができる町」を目指す。
2. 「住民自らが認知症を正しく理解し、偏見を持たず自ら認知症の早期発見・進行予防または治療のための行動を行うことができる町」を目指す。

◇活動内容とその成果

1. 地域全体で支える仕組みづくりの活動

平成20年度住民と行政、専門家が協働して町づくりを進めるために、それぞれの役割を考えるワークショップを開催し、その後発展的に「認知症あったかとのしょう町づくりの会（以下町づくりの会）」が発足した。町づくりの会は、ワークショップで作成した報告書をもとに各種団体への働きかけ、知識の普及啓発を目的とした講演会の開催などの活動を現在も継続して行っている。

1) 認知症あったかとのしょうみんなの集い

町づくりの会のメンバーが中心となり、平成21年度より年1回、認知症の正しい知識の普及啓発を目的として「認知症あったかとのしょうみんなの集い」を開催している。

集いでは、講演やシンポジウムのほか、町づくりの会のメンバーによる絵本の朗読や紙芝居などを行い、毎回、住民、介護サービス事業所職員など150名～200名が参加している。

2) 認知症サポーター養成講座

平成21年度香川県下で初めて、警察職員を対象とした認知症サポーター養成講座を開催した。そ

活動成果報告書

の後、銀行や郵便局などの事業所でも開催し、認知症の人にやさしいお店の登録とともに店頭ステッカーの掲示を依頼している。

また、介護予防サポーター養成講座に、認知症サポーター養成講座を組み込み、地域でサポーターが主体となって開催しているサロン活動の中で、認知機能が低下しても変わらないかわりができるサロンを目指して活動している。

平成 25 年度からは、高校生を対象とした認知症サポーター養成講座を実施し、養成講座前後の意識の変化を知るためのアンケート調査を実施している。アンケート調査の結果から、養成講座は認知症に対する意識や関わり方に変化を与える動機づけになっていることがわかった。

今後は、養成講座前後の短期的効果だけでなく、受講した高校生のその後の行動変容についても確認していきたい。



3) 徘徊あんしんネットワークの構築・徘徊模擬訓練

平成 21 年度、モデル的に豊島地区で住民主体の徘徊模擬訓練を実施した。反省会では「早めに消防団に連絡して欲しい。」「船で島外に出ると捜せなくなるので港で止められるようなシステムが必要」などの意見からネットワークの重要性を再確認した。

平成 23 年度、徘徊 SOS ネットワーク構築委員会を設置し、検討を重ねた結果、平成 24 年 9 月に「土庄町徘徊あんしんネットワーク」を設置することができた。

そして、ネットワーク機能の検証と住民が認知症の症状・対応などの正しい知識を学ぶ機会として、徘徊模擬訓練を継続して実施している。

また、模擬訓練終了後の反省会で「事前に声掛けの仕方などの研修をしたほうが良いという意見があり、模擬訓練前に開催地域において認知症サポーター養成講座を開催している。



2. 認知症の早期発見、進行の予防及び治療への働きかけ

1) もの忘れ検診

住民自らが認知症を正しく理解し、偏見を持たず自ら認知症の早期発見・進行予防または治療のための行動が行なえることを目的として、平成 21 年度からもの忘れ検診を実施している。町内全地区で実施後結果を踏まえて、平成 24 年には検診方法やフォロー体制を検討した。

《検診のみの実施 平成 21 年度～平成 23 年度》

目的 認知症の理解を深めること、地区の現状把握、認知症の早期発見・進行予防、認知症が疑われる者を受診につなげること。

方法 健康教育：認知症の正しい知識

一次検診：問診+物忘れ相談プログラム+MMS+専門医の診察・結果説明

結果 物忘れ検診を実施して、地域の現状把握を行い、認知症の早期発見や受診への動機づけの効果が確認できた。要医療と判断された方については、訪問して受診確認・未受診者への受診勧奨を行い、治療に結びついたケースもあったが、未受診や受診しても年相応と言われたケースもみられた。また、予防教室などフォロー体制がない中で検診だけでは、「不安をあおるだけなのではないか」という意見もあり、24 年度は検診を中止し二次検診の方法や検診後のフォロー体制を検討した。

活動成果報告書

《体制づくりができて実施 平成 25 年度～》

目的 認知症を早期に見出し早期対応することで重症化を予防するとともに、軽度認知障害の段階で見出し対応を行うことで認知症の発症を予防する。

方法 健康教育：認知症の正しい知識

一次検診：問診+物忘れ相談プログラム

二次検診：タッチパネル式ADAS+専門医の診察・結果説明

検診後の対応：予防教室対象者は、スッキリはっきり教室参加を勧奨

結果

	一次検診			二次検診		
	問題なし	治療中	二次検診	問題なし	予防教室	要医療
平成 25 年度	52	3	27	8	11	8
平成 26 年度	33	0	15	7	6	2

2) 認知症予防教室（スッキリはっきり教室）

目的 軽度認知障害の方を対象に認知症の進行予防または改善を図る。認知症が予防できる生活習慣を習得できる。

方法 回数：週 1 回× 3 か月の計 1 2 回

内容 運動、知的プログラム、音楽療法、生活指導

評価 教室参加前後にタッチパネル式ADASを実施

結果 認知症予防教室に参加することで、短期的な認知機能の改善が見られ、教室の効果は検証された。しかし、もの忘れ検診で軽度認知障害と判断された方を対象としており、幅広く認知症予防の知識の普及・啓発には至っていない。

また、教室終了後の長期的な効果の検証も必要と考えている。

【教室前後の変化】

	参加者数	改善	不変	悪化
平成 25 年度	9	5	4	0
平成 26 年度	4	2	2	0
平成 27 年度	6	3	2	1



◇今後の計画

1. 地域で支える仕組みづくりの継続と強化

認知症に対する正しい知識の啓発・普及を行い、住民、行政・関係機関の職員が協働し、地域で認知症の方を支える体制づくりを検証しながら強化できるよう進めていく。具体的には現在行っている事業を評価・改善し継続するとともに、啓発のための媒体として紙芝居等を作成し、町づくりの会のメンバーとともに、老人会、婦人会、サロン等に出向き、啓発活動を行う。

また、若い世代にも認知症への関心を高めてもらう機会として「認知症になっても安心して暮らせる町を一緒に考える」ワークショップに高校生も参加してディスカッションできるよう計画している。

2. 認知症の早期発見・予防または治療への働きかけ

認知症予防教室の効果は検証されたが、参加者は限られている。まずは、住民自らが認知症を正しく理解し、偏見を持たず自ら認知症の早期発見・進行予防、治療のための行動を行うために、地域のサロン活動等、色々な場面で働きかけ、PR する必要がある。そこで、町づくりの会、ホットハートサポーター（介護予防サポーター）のメンバーとともに、サロンで活用できる認知症予防のための媒体を作成し、サロンで実践することで、幅広く正しい知識の普及啓発を行い、検診への参加等を含む早期発見・予防、治療に繋がる活動を継続して実施していきたい。